



アジア刑政通信

ASIA CRIME PREVENTION FOUNDATION

NO. 59

2016

11/1

編集／発行人 公益財団法人 アジア刑政財団

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴ1007号室 ☎ 03-3583-1790

第1回「敷田賞」決定 故アイリーン・メラップさんに アジア刑政財団ニューヨーク駐在代表



「敷田賞」の第1回受賞者、故アイリーン・メラップさんは、半世紀にわたってアジア研・ACPFの国際貢献を支えた。

若き日の写真と、彼女を偲ぶ記帳台（国連ウィーン事務所）、それに「敷田賞」賞状を掲げる



巻頭言 2020 コングレスに向けて

アジ研所長 千田 恵介

4月11日付をもって、国連アジア極東犯罪防止研修所長を命ぜられました。アジア刑政財団の皆様には、日頃からアジ研の活動に対する多大なご支援をいただき、お礼申し上げます。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

私は、平成15年から4年間、アジ研に勤務しており、今回は2回目のアジ研勤務となります。この度、アジア刑政通信に拙文を掲載いただくこととなりましたので、今後数年間においてアジ研が対処すべき課題についてご紹介したいと思います。

まずは、アジ研庁舎の移転問題です。アジ研の現庁舎は、昭和57年に建てられたものであり、34年間にわたって、数多くの海外・国内研修員が「同じ釜の飯」を食べながら研修を行ってきました。しかし、アジ研は、来年秋に、東京都昭島市に設置される国際法務総合センターの一角に移転することになりました。同センターには、アジ研のほか、法務総合研究所国際協力部や矯正研修所など法務省関連機関が移転することになっています

が、幸いアジ研は広大なセンター敷地のうちJR青梅線東中神駅に最も近い一角に位置しており、研修棟・宿泊棟とも最新の設備を準備いただいております。住み慣れた府中を去りますことは心残りですが、移転作業を確実にいき、研修等の業務に支障のないよう全職員で対応して参ります。新庁舎は都心から更に離れることとなりますが、移転後もご支援のほどお願いいたします。また、長年にわたり多大なる協力をいただいた府中市及び府中市民の皆様にもお礼申し上げます。



来年9月12日から14日にかけて、第3回世界保護観察会議が品川プリンスホテルで開催されます。この会議は、平成25年の第1回会議（ロンドン）及び同27年の第2回会議（ロサンゼルス）に引き続き開催されるもので、アジ研も共催機関の一つとなっていま

目次

巻頭言	2020 コングレスに向けて	アジ研所長 千田 恵介	2～3
第1回敷田賞	故アイリーン・メラップ女史に		4～7
アジ研ニュース special	アジ研同窓会で25年ぶりの再会		8～13
トピックス	森評議員が研修参加者を東京競馬場に招待		14
	赤根氏がICC 裁判官選挙候補者に		
	／出版しました！絹谷幸二、堺屋太一両氏		15
国際貢献カレンダー	2017年版発行 / 『安全な国 日本』大好評		16～17
支部だより	横浜支部 / 期成会 / 大阪支部 / 名古屋支部 / 札幌支部 / 栃木支部		
	／長野支部 / 千葉支部 / 埼玉支部		18～33
本部だより	来年1月に4回目のタイ・セミナー開催 / 松尾副理事長が退任		
	／田中評議員が瑞宝重光章受章 / MCPF 訪日 / メータ氏訪日		
	／主な海外活動		34～35
役員名簿、支部一覧、海外協力団体一覧▽編集後記			36～38
入会申込書			39

す。東京会議では、社会内処遇制度の発展と課題などについて、世界から参加する専門家、研究者、実務家がさまざまな議論を行うことが予定されています。アジ研は、1990年に国連総会により採択された東京ルールズ（非拘禁措置に関する最低基準規則）の原案作成とりまとめ作業を始め、犯罪者の社会内処遇に関しては、多くの研修のテーマとしたり、研究を実施したりしてきました。犯罪者を適切に社会内において処遇し、再犯を防ぐことは、正にアジア刑政財団の目的とする「犯罪なき繁栄」に寄与するところであります。今後、財団の皆様とも連携の上、準備作業を進めて参りたいと思います。

平成32(2020)年には、第14回国連犯罪防止刑事司法世界会議（ kongress ）が日本で開催されます。この kongress は、1872年にロンドンで初めて開催され、その後定期的に開催されてきた国際監獄会議の開催を、第二次大戦後、国際連合が名称を変更して引き継ぎ、1955年以来5年ごとに開催されてきた世界最大の刑事司法関係会議です。1970年の第4回 kongress は京都で開催され、アジア刑政財団の敷田稔前理事長が当時国連職員として準備作業及び会議自体の運営で獅子奮迅の働きをなさいました。

第14回 kongress は、50年ぶりに日本で開催される kongress であり、刑事司法関係者だけでなく、我が国にとってもビッグイベントです。アジ研は、過去の kongress においてもワークショップを運営するなど会議成功に積極的に寄与してきた自負がありますが、次回 kongress では、ホスト国所在の国連関係研修機関として、万全の準備をして臨む所存です。

本稿執筆時点では、kongress 開催都市は決定されていませんが、kongress には、世界各国から多くの刑事司法関係者が参加します（2015年にカタールのドーハで開催された第13回 kongress には、約140カ国から

約5000人が参加しました）。多くのアジ研同窓生、アジア刑政財団海外協力団体の関係者も来日するのは確実です。その中には、開催都市ばかりでなく、アジア刑政財団本部・支部が所在する地域を訪問する方々も多いものと思いますので、もし皆さんの地域を訪れたいと希望するアジ研同窓生、アジア刑政財団関係者がいたら、ぜひ歓待いただければと思います。

最後に、8月に逝去されたアイリーン・メラップ女史のことについて一言触れさせていただきます。

アイリーンは、ユダヤ系ポーランド人として出生しましたが、第二次大戦中に米国に逃れ、国際連合設立直後に国連職員となりました。1986年に定年退職されてからも、コンサルタントとして国連に勤務され、国連の犯罪防止・刑事司法分野の活動の「生き字引」として、同僚、後輩に時として厳しい助言を行って来ました。アイリーンは、何か思いつくと、相手が世界中のどこにしようが、現地時間が何時であるかかわらず電話をかけてくる人で、国連の友人の間では、「昨夜アイリーンから電話があったね」というのが半ば挨拶ようになっていたこともありました。

私は、1990年から92年にかけて、国連ウィーン事務所に勤務していたことがありますが、ウィーンに着任初日、当時の部長のエドゥアルド・ヴェテレ氏に挨拶に行ったところ、「君はここで働いてくれ」といわれてある部屋に案内されました。そこにいたのがアイリーンで、その後約1年間、私はアイリーンと同じ部屋で仕事をし、英文の書き方や国連での仕事の仕方について、たっぷりと指導を受けました。

晩年、アイリーンはニューヨークに戻り、被害者保護に関する活動とともに、アジア刑政財団ニューヨーク駐在代表として活躍されていましたが、本年8月に永眠されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

第1回「敷田賞」アイリーン・メラップさん アジア研・ACPFへ貢献 半世紀



アジア刑政財団が、今年度新設する「敷田賞」の第1回受賞者に、当財団から国連本部へのニューヨーク駐在代表、アイリーン・メラップ女史（本年8月14

日逝去、90歳）を選定した。近く関係者に賞状と記念品を贈呈する。

「敷田賞」は、敷田稔前理事長（現会長顧問）が財団に3千万円を寄付したことに伴って創設することになった。

メラップ女史は、まず1970（昭和45）年に京都で開かれた第4回国連犯罪防止世界会議（コンgress）の成功に多大な貢献をした。

敷田前理事長は京都コンgressの開催準備のため、その3年前の67（昭和42）年12月にニューヨーク国連本部事務局の「社会防衛課」に派遣されたが、同課の職員として敷田氏の補佐官的立場で仕事を進めたのがメラップ女史だった。

当財団（ACPF）が設立されたのは1982（昭和57）年、国連NGOに認可されたのは91（平成3）年5月で、トップカテゴリー「総合協議資格」昇格が2000（平成12）年5月。さらに5年毎の更新手続き。メラップ女史は、そのいずれの場面でも、国連職員、退職後はACPFから国連本部へのニューヨーク駐在代表として財団のバックアップに全力を尽くしてくれた。

IRENE MELUP（アイリーン・メラップ）さん

- ・1925年10月26日 ポーランドで出生
- ・1946年～1986年 国連勤務（ニューヨーク本部）
（1967年～1971年 敷田前理事長（国連社会防衛課長）とともに国連ニューヨーク本部で勤務）
- ・1991年～2016年 当財団から国連本部へのニューヨーク駐在代表
- ・2016年8月14日 ニューヨークの病院で逝去
- ・メラップさんは、国連在勤中は、被害者（特に犯罪被害者や公権力濫用の被害者）の権利の守護者として、また、その権利の拡大・拡充のために尽力をされました。
- ・2000年に当財団が国連NGOのトップカテゴリーである「総合協議資格」を得る際にも、ご尽力いただきました。

メラップ女史のUNAFEI（国連アジア極東犯罪防止研修所）、ACPFに対する貢献は半世紀に及ぶ。

ところが、メラップ女史は、敷田賞第1回受賞者の選定作業が進む中、本年8月14日に90歳で亡くなった。

当財団はメラップ女史の実績を評価して、故人になられた同女史に「敷田賞」の第1号受賞者になっていただくことにした次第だ。

今回の刑政通信では、追悼の意を含め、アイリーン・メラップさんの写真などを掲載するとともに、メラップ女史の功績、全体像を敷田前理事長に語ってもらった。

（事務局長 堀内国宏）

敷田前理事長にインタビュー 聞き手・堀内事務局長



敷田前理事長（左）と堀内事務局長

堀内 本日は、「敷田賞」の第1号受賞者になっていただくアイリーン・メラップさんのことで、インタビューにお邪魔しました。よろしくお願ひします。ところで、敷田先生は、お見受けするところ、肌の色つやも良く、すこぶるお元気そうですが、最近はいかがが過ぎなのですか？

敷田 平成21(2009)年に私が最も信頼し、敬愛し、尊敬している日野正晴理事長に財団理事長の席をお譲りしてからは、東京平河町の事務所も撤収して、専らこの江の島の自宅で過ごしています。そして、大好きな富士山の移りゆく雄大な景色を楽しみつつ、これまで大好きな日本酒を楽しんでいます（奥さんからは、文句を言われながらですがネ（笑））。

アイリーン・メラップさんのお人柄やご功績について

堀内 「敷田賞」の第1号受賞者として、かねてから財団から国連本部へのニューヨーク駐在代表としてご活躍いただいたアイリーン・メラップさんを選ばせていただきましたが、まず、メラップさんのお人柄やご功績について一言お願ひします。

敷田 メラップさんは、私が1967（昭和

「敷田賞」について

・敷田稔前理事長におかれては、平成26年4月1日、当財団の「公益財団法人」への移行を祝して、その個人財産から3,000万円を当財団にご寄附いただきました。

・それを受けて、当財団では、その全額を、当財団の基本財産に組み入れ、この部分を「敷田基金」と名付けて、未来永劫、これを守り通し、当財団の更なる発展のために活用させていただくことにしています。

・それと同時に、この「敷田賞」の構想も浮上し、国の内外で国際的な犯罪防止活動に顕著な貢献をされた方、または当財団の発展に顕著な貢献をされた方に、この「敷田賞」を贈呈して、その貢献に感謝の意を表することとした次第です。

・アイリーン・メラップさんについては、当初から名前が挙がっており、その伝達方法について模索していたところ、そのご本人が急逝されたため、「没後贈呈」という形をとることになりました。

42)年12月に、国連ニューヨーク本部の社会防衛課に派遣されたときに、既にその課に配属されていた方で、私より7歳年上のベテランでした。

彼女は、その写真にもありますとおり、大層おしとやかな美人である上に、国連本部の中でも最も信頼されているスタッフで、「国連の生き字引」とも言われていた方です。

私との関係では、私の「補佐官」的立場として、私の頼んだことはすべて彼女に実現してもらっていました。

私のそこでの最大の任務は、「第4回国連コンGRESS」=1970（昭和45）年京都で開催=を成功させることでしたが、メラップさんは、そこでも、国連本部内での文書の作成、他の部課への根回し、意見の調整などにも大



国連ウィーン事務所1階大広間（ロンドンタ）脇に設けられた故アイリーン・メラップさんの記念台。左奥にACPFが国連50年記念で贈った「鳳凰来儀」が見える

活躍をいただき、その会議の際には、彼女も日本に来てくれて、 कांग्रेस運営の裏方として、この会議を大成功に導いてくれたのです。

私は、第3回 कांग्रेस（ストックホルム開催）から第11回 कांग्रेस（バンコク開催）まで、5年毎に開催される国連 कांग्रेसに連続9回参加しているのですが、メラップさんも、その在職期間中は、ほとんどすべての国連 कांग्रेसに参加していたはずで、それぞれの国連 कांग्रेसを大成功に導いてくれたので、その業績は、国連内部でも高く評価されています。

また、当財団との関係では、当財団が設立された1982（昭和57）年には、メラップさんは国連本部在職中ではありましたが、当財団設立の目的、設立の意義などについて、国連本部内に広報する役割を果たしていただきました。

さらに、メラップさんが国連本部を退職された後には、私の方からメラップさんに「国連本部へのニューヨーク駐在代表」をボランティアベースで委嘱し、これも快諾いただき、それ以後、お亡くなりになるまで、その仕事を全うしていただきました。

中でも財団として忘れてはいけないのは、メラップさんは現在も国連ウィーン事務所へのウィーン駐在代表をしていただいているジョランタ・レドさんとタッグを組んで、当財団が国連 NGO のトップカテゴリーである

「総合協議資格」を得ることに大変なご尽力をいただき、2000（平成12）年には見事に昇格して、その資格を得ることができたことです。そして、その後、5年ごとの継続審査に際しても、貴重なご助言をいただきました。

この意味でも、メラップさんは、当財団の発展のために最大の貢献をされた方々のお一人として、是非とも「敷田賞」の第1号受賞者になっていただきたいと願っていたところです。

堀内 国連関係者の話からすると、メラップさんは、犯罪被害者や公権力濫用による被害者の救済やその権利の保障の面でも大きく貢献されたとのことですが、この点はどうだったのでしょうか。

敷田 それは、そのとおりです。

国連本部では、毎回の国連 कांग्रेसにおいて、犯罪被害者や公権力濫用による被害者の救済やその権利の保障の必要性を強調して、それを可能とする施策を提案しており、その準備をメラップさんが終始担当して、多大な成果を挙げられたのですから、「犯罪被害者や公権力濫用による被害者の救済、その権利の保障への貢献者」としても高く評価されているのです。

メラップさんのご趣味などについて

堀内 メラップさんのお人柄を示すようなエピソードなどあればお願いします。

敷田 エピソードと言われてもちょっと

…。「彼女の趣味は何か」と言われれば、「仕事が趣味」としかお答えできないと思います。

メラップさんは、若いころも最近も、その写真のように、おしとやかな美人であり、しゃべり方も、物静かで周りからも好感をもって迎えられる、それによって、仕事もスムーズにこなしてくれた人ですが、私との間では、仕事を離れて個人的にお話しする機会もほとんどありませんでした。趣味などプライベートな部分は、あまり理解できておりません。

彼女は、その葬儀が行われたのがニューヨークのユダヤ教教会であることから分か

るように、ポーランド系ユダヤ人で、第2次世界大戦の最中には、ご両親をはじめ身内の大半を失い、現在も彼女には身内の方はいないはずです。

しかし、彼女は、そうしたつらい過去については、ほとんど自分からはしゃべらず、ただ明るく物静かに仕事に没頭していましたので、「彼女の趣味は仕事」というほかないと思うのです。

このような答えて良かったでしょうか。

堀内 ありがとうございます。

日野理事長からの弔電

・アイリーン・メラップさんの葬儀は、親しい国連関係者などが力を合わせて、本年8月18日に、ニューヨークのユダヤ教教会である PLAZA JEWISH CHAPEL で執り行われ、以下の弔電は、そこで披露されました。

この弔電は、ニューヨークの国連 NGO 部門にも当財団から国連本部へのニューヨーク駐在代表の逝去通知とともに送られております。

・以下、その抄訳です。

日野理事長の弔電（抄訳）

私たちは、アジア刑政財団から国連本部へのニューヨーク駐在代表であるアイリーン・メラップ女史の御逝去の報に接し、深い悲しみに耐えております。

私自身は、2010年ブラジル・サルバドルでの第12回国連コンGRESの機会に、メラップ女史とお会いしたのが最後となりました。そのときも、そのお年(当時84歳)から考えてもとても元気よく活発に活動されていたのが印象的でした。特に私が感銘を受けたのは、メラップ女史が私ども公益財団法人アジア刑政財団が支援している国

連アジア極東犯罪防止研修所の活動を気にしてくださり、絶えず、ウェブサイトで、その活動をフォローされるとともに、当財団の種々の活動についても、高い評価をいただき、建設的なご意見をお述べいただいたことです。

メラップ女史は、私の先代の理事長である敷田稔先生が1967年から1971年までニューヨークの国連本部事務局の社会防衛部門に勤務された当時、彼にとって極めて有能な同僚としてご活躍され、その後、この敷田理事長からのリクエストによって、1991年以来、お亡くなりになるまで、当財団から国連本部へのニューヨーク駐在代表をお引き受けいただきました。当財団のスタッフを、その幅広い経験と優しい励ましによってご指導いただいて、当財団に対して、多大なご貢献をいただきました。このことに対しまして、改めて、私たちの心からの感謝の気持ちを述べさせていただきます。

アイリーン・メラップ女史のご冥福を心からお祈りしております。

日野正晴（署名）

公益財団法人 アジア刑政財団 理事長

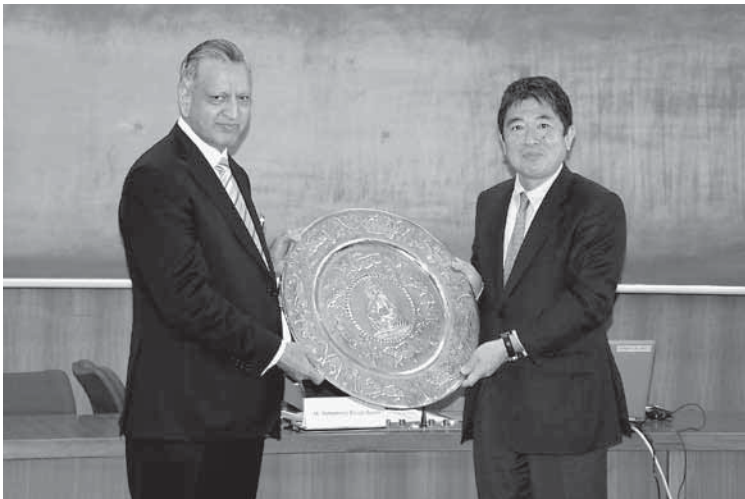
国際会議場で記念撮影。右端に西川克行・現検事総長（4月16日アジ研で）



25年ぶりのリユニオン

UNAFEI 初

ACPF 賛助会員 山下 輝年
(前アジ研所長)



サドル氏（左）から記念品を贈られる千田アジ研所長

員が、25年ぶりにリユニオン(自主同窓会)を兼ねた国際会議「過去25年の刑事司法の発展と今後」で参集したからだ。

前日から日本人研修員が三々五々集まる度に「おお、変わってないなあ」と懐かしむ。そこへ海外研修生が一人、また一人と荷物を抱えてやって来る。六十過ぎに似合わぬ甲高い声上がり、握手握手、ハグハグの連続だ。見ている側も頬が緩む。

発案は海外同窓生

この発案者はパキスタン警察の元長官サドル氏だ。2年前に思いつき、当時の赤根UNAFEI所長に伝わり、私の所長時代も話があったが、訪日する実現性は低い。

ところが2015年末頃、第89回当時のホー

UNAFEI 再訪

府中 UNAFEI は4月には研修がない。だが2016年4月16日(土)は様相が違った。1991年当時のUNAFEI第89回研修員と職



全員発言の同窓会

ムビジット先の長沼ゆりさんを通じて「4月の土日にUNAFEIに宿泊し国際会議場で同窓会をやりたい」「同窓生以外の歴代関係者にも会いたい」という意向が伝わる。長沼さんは25年もの間、ニュースレターで交流していた。海外同窓生が自費でUNAFEIに集まるという前代未聞の企画。内容は①UNAFEIで2泊、②日野市や伊豆での施設見学で3泊、③可能なら法務省か検察庁の幹部表敬訪問、④離日前にUNAFEIで2泊。プログラム②は全て長沼さんが面倒を見る。

歴史的イベントへ協力

自主企画とはいえ、ここで全面サポートしなければUNAFEIや`国連、NGOのACPFの名が廃る。本来ACPFの役目だが、UNAFEIが動かねば国内同窓生への連絡調整も覚束ない。早速、当時の杉原弘泰所長、西川克行教官（現検事総長）に話すと、破顔一笑しOK。

問題は宿泊費や懇親会費の資金である。ACPF懇親会支援でも足りず、会費制にし、更に御芳志という善意にも頼る。幅広く声かけし、本誌58号14頁でも予告

した。動けば協力者が出てくる。ACPF吉田弘之事業部長のツテでプロバイオリニスト相知明日香さんの演奏実現となった。実は相知美和子さん（ACPF会員）の娘さんである。

国際会議 + 同窓会の模様（午前）

その結果、当日は総勢60名が集まった。海外から6名、なんと日本人研修員と当時の教官諸氏も全員集まった。その他に歴代職員10名、ACPF関係者10名（支部からも参加あり）、保護司アジ研協力会の方々。善意の「御



自己紹介する当時の伊藤教官（右）。左は西川現検事総長

中国のチェン氏



シンガポールのリー氏



ネパールのラメッシュ氏



芳志」も沢山。

午前10時から午後4時までのプログラムは89回研修同窓生が主導。サドル氏の進行で、同窓生の物故者と熊本地震の被災者へ黙祷で厳かに始まり、企画趣旨が述べられた。

これが仕事始めになる千田恵介 UNAFEI 所長の歓迎の辞、続いて当時の杉原所長が流暢な英語で「UNAFEIの絆、二度とないであろう同窓会の素晴らしさ、当時の所長冥利に尽きる」などと述べられた。

午前中はUNAFEI研修開始を想わせる再びの自己紹介セッションだ。この場には歴代所長の杉原・堀内・赤根・山下・千田が参加しており、皆がDirectorを名乗るので笑いが起きる。昼食時の食堂も賑やかなものとなった。

国際会議の様様（午後）

午後は、まず最近のUNAFEI活動を説明し、25年前と違う点を説明した。大きく違うのは研修期間で12週間から5週間になったこと、そして2017年10月には府中から昭島へ移転することである。期間の長短は、同窓生は5週間が短く何もできないと感じ、現役職員は12週間も何をやってたのかと感じる。まさに隔世の感となり、人が如何に環境に順応しやすく、ともすれば異なった前提で話をしていることを実体験したのだ。そしてDVDで現在の様子もダイジェスト版で披露した。技術革新の賜である。この同窓会のタイミングの良さを実感した。

続いて、海外同窓生が一人ずつ発表した。研修以後の刑事司法の変化と、UNAFEIや



フィリピンのガーニャ氏



大野重國氏



渡邊徳昭氏

当時のアジ研所長・杉原弘泰氏



二村英俊氏



堀内明氏



ACPFの果たす役割について、それぞれの思



バイオリンを演奏する相知明日香さん(右)とアジ研同窓生の原田豊さん

いを語る。印象深いのはサドル氏の「日本の有罪率が99.9%と聞いて、最初はミスプリントだと思った」「警察の公安委員会制度を本国に導入した」という話。そして中国チェン・シャオミン氏の「当時は最年少で

講師、今やアモイ大学法科大学院の副院長。UNAFEI研修で視野が広がったお蔭である。今後もUNAFEIとACPFには、参加者にそういう思いがあり、機会があれば何か関与したい」という話も感慨深いものがあった。

議論の後はバイオリン演奏会となり、華やかな舞台衣装姿で3曲が披露された。うち1曲は日本情緒豊かな「浜辺の歌」であった。

懇親会・同窓会へ(夕刻)

午後5時30分からは待ちに待った懇親会(同窓会)だ。総勢60名がUNAFEIラウンジA(食堂)に集まると狭く感じる。関与した時期は違えども、UNAFEIファミリーの強みだ。至る所でグラス片手に談笑の輪ができ、一息つくと別の輪ができ、面識がなくても互いに分かり合える。午後7時を過ぎる



高木和哉氏



粕淵功氏



横田信之氏

懇親会で記念撮影



さて、予想以上に集まったご芳志は、全額を長沼さんに託した。日野市や伊豆で移動・宿泊・食事など何かと費用がかかるからだ。ところが4月21日に「半分余り

と、ラウンジBでの二次会に移行。懐かしい写真のスライドショーで、また沸き上がる。

最後のサプライズ!

翌4月17日(日)は、プログラム②に従って、海外参加者6名(韓国のイ・ハンソン氏もこの②に参加)がUNAFEIを出発する。杉原元所長が家族で来られて見送った。当時は所長官舎に住み、研修生と近しかったのだ。

その後、一行は東京近郊で3泊を過ごし、最後の4月21日(木)は西川東京高検検事長(当時)を表敬訪問した。歓談どころか刑事司法の議論となるから凄い。

ました」と返却された。受け取るわけにもいかず、海外参加者に相談する。なんと熊本地震の義捐金に使おうとなり、早速振り込んで、彼らの善意を送り届けた。

皆が繋がりを持つことの重要さ、そしてそれを企画推進する役目がACPFに求められていることを実感した素晴らしいイベントであった。

卒業生(括弧内は現職又は元職)

Mr. CHEN, Xiaoming (中国廈門大学教授)

Mr. LEE, Hansung (韓国 元議員)

Mr. Ramesh Kumar Shrestha (ネパール元



ガーニャ氏を真ん中に ACPF の山口隼千(左)と相澤正雄両氏



ACPF 理事の太田達也氏



当時のアジ研中島浩次長(左)と ACPF 審議役の長島裕氏

警察庁監察官補)

Mr. Mohammad Shoaib Suddle (パキスタン元警察庁長官)

Mr. Severino H. Gaña, Jr. (フィリピン次長検事)

Mr. LEE, Cheong Hoh (シンガポール弁護士)

二村英俊 (元那覇少年鑑別所・首席専門官)

磯網正子 (保護観察官) 大野重國 (公証人)

高木和哉 (公証人) 渡邊徳昭 (公証人)

横田信之 (公証人) 堀内 明 (判事)

粕淵 功 (公正取引委員会審査局審査管理官)

主な当時の職員参加者

杉原弘泰所長 中島浩次長

伊藤納裁判教官 西川克行検察教官

長島裕検察教官 尾崎鉄也矯正教官

小柳武矯正教官 高池俊子保護教官

橋本昇保護教官 染田恵事務官

飯塚千秋事務官 高橋雅博事務官

神保克彦事務官 廣岡恵 (JICA)

岡口 (旧姓白川) 薫コーディネーター

井田トシコ (食堂)

ACPF 関係の参加者

理事 太田達也 慶応義塾大学法学部教授

同 杉原弘泰 アジ研第 10 代所長

同兼事務局長

堀内国宏 アジ研第 12 代所長

評議員 森 恭彦

評議員 堤 哲「アジア刑政通信」編集長

審議役 長島 裕 アジ研元教官

横浜支部副会長 相澤正雄

名古屋支部会員 津田 守 名古屋外国語大学教授

名古屋支部主幹 山口隼千

本部会員 長沼ゆり

本部会員 相知美和子

本部会員 原田 豊

本部事務局 総務部長 大森晶夫

経理部長 市川美鈴

事業部長 吉田弘之

★タイ刑政財団キティポン理事長一行がアジ研国際研修歓迎会に参加

9月21日、アジ研とタイ法務研究所との間の国連活動に関する覚書調印のため、タイ



前列左から、キティポン理事長、山下前アジ研所長、鈴木仁期成会会長

法務研究所長キティポン氏一行がアジ研を訪問した。キティポン氏は、タイ刑政財団理事長でもある。覚書調印後、一行は、アジ研第164回国際研修歓送会に参加し、ACPF関係者と懇談した。

★アジ研 22 代所長に千田氏

国連アジア極東犯罪防止研修所 (アジ研) の第 22 代所長に 4 月 11 日、佐賀地検検事正の千田恵介氏が就任した。

千田氏は 1958 年、鹿児島県日置市生まれ。87 年検事任官。アジ研では教官 (2003)、次長 (2005 ~ 07) を務めた。国連事務局にもウィーン (1990 ~ 92)、バンコク (2007 ~ 09) と二度出向した国際派だ。

前任の山下輝年氏は最高検検事で退官。現在渋谷公証役場公証人。



アジ研国際研修参加者を東京競馬場に招待 森評議員



前列中央の森氏を囲み、場長室前の特別席で記念写真

平成 28 年 5 月 28 日、評議員の森恭彦氏がアジ研第 163 回国際研修参加者を東京競馬場に招待した。森評議員は東京府中ロータリークラブ元会長で、中央競馬会の馬主。研修参加者にリフレッシュしてもらうのと、ACPF のアジ研研修への協力に理解を深めてもらうのが目的である。

競馬場最上階の貴賓室に迎えられた研修参加者は、歓迎のあいさつのあと、森氏から「安全な国日本」の統計手帳をプレゼントされた。研修参加者の誰もが「安全なニッポン」を体感していて、手帳型小冊子に収められた数々



本馬場への通路で出走馬を見物



大穴をどうぞ!? ドーナツ店の店先



「当たった!」と喜ぶ研修参加の女性

のデータに興味深く見入っていた。

一般客では入れないパドックから本馬場に通じる通路協で、サラブレッドを間近に見学した。そのあと場長室

協のゴール前席で特別観戦。「ゴー、ゴー!」などと叫んで大興奮だった。

馬券の買い方の英文パンフレットを参考にウデ試しをした参加者もいて、「当たった」と飛び上がる女性研修員もいて大盛り上がり。記念写真におさまって、研修の合間の楽しいひとときとなった。

(事業部長・吉田弘之)

トピックス

赤根氏がICC 裁判官選挙の候補者に



元アジ研所長の赤根智子氏が2017年秋に実施される国際刑事裁判所（ICC）裁判官選挙の候補者に擁立された。当選すれば日本人

のICC裁判官として3人目だが、法務省（検事）出身は初めて。

ICCは、国際社会にとって最も深刻な罪（集団殺害罪、人道に対する罪、戦争犯罪、侵略の罪）を犯した個人を裁くオランダ・ハーグにある常設国際刑事法廷。

日本人の裁判官は、初代が2007年に当選

した外交官・齋賀富美子氏（2009年逝去、65歳）、二代目が09年の補欠選挙で当選した外交官・尾崎久仁子氏。尾崎氏は04年から在ウィーン国際機関日本政府代表部公使を務め、06年には、日本人として初めてウィーン国連本部にある国連薬物犯罪事務所（UNODC）条約局長に就任した。2018年3月に任期が満了になるのに伴い、赤根氏の擁立となった。

赤根氏は東大法卒。1982年検事任官。函館地検検事正・アジ研所長から法総研所長。現在は最高検検事兼外務省参与（国際司法協力担当大使）

トピックス

出版しました！ 絹谷幸二、堺屋太一両氏

『絹谷幸二 自伝』が日本経済新聞出版社から刊行された。真っ赤な太陽から黄金色の光が海へと注ぐ表紙。豊かな色彩からエネルギーが満ちあふれている。



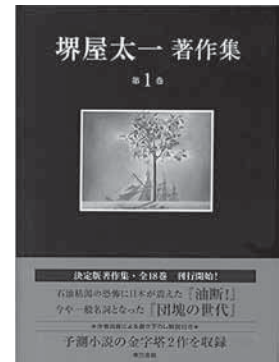
昨年11月、日本経済新聞朝刊に掲載された「私の履歴書」に加筆した。@2400円。

1943（昭和18）年奈良市生まれ。東京芸大卒。74年、31歳で安井賞受賞（最年少）。93年東京芸大教授。2001年日本芸術院会員。08年若手画家のための絹谷幸二賞創設。14年文化功労者。ACPF理事、期成会名誉会長。

堺屋太一著作集（全38巻）の刊行が始まった。「団塊の世代」など数々の新語を生み、ベストセラーを世に送り出した堺屋太一ベストコレクションをうたう。第1巻「油断！

団塊の世代」(@3,500円)、第2・3巻「巨大なる企て」上(@3,500円)、下(@3,400円)が東京書籍から発売中。

1935（昭和10）年大阪市生まれ。東大経済学部卒、通産省（現経産省）入省。70年大阪万博を成功させた。98年経済企画庁長官。2003年ACPF会長。12年旭日大綬章。夫人は日本芸術院会員で洋画家池口史子さん。



「国際貢献カレンダー」2017年版 100部以上で名前も刷り込みます！

文化功労者・絹谷幸二先生（ACPF理事）の作品で好評の「国際貢献カレンダー」2017年版を例年通り発行します。この会報の裏表紙に、見本を掲載しています。財団のスローガン「犯罪なき繁栄」を刷り込んで、ニューヨークとウィーンの国連本部をはじめ、アジア各国にある ACPF の海外関係機関・協力団体等に無償で送付・贈呈しています。

1部、協賛金 1,500円です。

100部以上申し込まれると、会社名入りのカレンダーとすることができます。希望される方は、財団事務局（電話 042-334-6639、Fax042-334-3461、E-mail : info@acpf.org）へ申し込んでください。

ご協力をよろしくお願い致します。

日本語版名入れ

A2判サイズ
(420×594mm)



2016年のカレンダーです。

100部以上申し込みの場合、名を入れます

●名入れは黒1色です。

●社名刷込み例（貴社名印刷用原稿）

(注) 指定のマーク、書体がある場合は、必ず白紙に黒色で印刷された見本を添付してください。
社名印刷スペース 最大寸法左右12cm×天地2cm



※手書き、フリーハンドによるものはお引き受け出来かねます。

株式会社、有限会社等の別をお書きください。

各国語版

A3判サイズ
(297×420mm)
※日本語版の1/2サイズとなります。



2016年のカレンダーです。

この「国際貢献カレンダー」は、下の各国言語を使用した各国語版カレンダーも作成し、国際貢献の一助とするため、各国の関係機関に無料配布しています。

これらの各国語版カレンダーは、海外取引、海外交流等にもご活用いただけると存じますので、お申し込みの際は、下の申込部数欄にその旨ご記入ください。

※各国語版は財団のスローガンである「犯罪なき繁栄を目指して」を各国語で印刷したものです。（下記は英語、ネパール語、北京語）

FOR PROSPERITY WITHOUT CRIME IN ASIA AND THE WORLD

शुचिपद्मं सम्पूर्णं विना
अमराध्वरहितं सम्मूर्धो विर
रः वि. वि. सफ. नेपाल

从亚洲到世界范围内，走向繁荣没有犯罪。
總公司
亞洲和遠東國際犯罪和罪犯待遇研究所協會

全14ヶ国語		部	部	部
英語	部	シンハラ語(スリランカ)	部	タイ語
韓国語		マレー語(マレーシア)		ウルドゥー語(パキスタン)
北京語(中国)		ネパール語		インドネシア語
ベンガル語(バングラデシュ)		ベトナム語		タガログ語(フィリピン)
		ビルマ語(ミャンマー)		ヒンディー語(インド)

計 部

2020 コンgress『安全な国 日本』の売り込みを！ 大好評！ 国際研修参加者にも喜ばれています

ACPFが昨年7月に発行した
データで見る
『安全な国 日本』
JAPAN, How Safe?

が好評だ。

日本がいかに安心・安全な国か、
各種データで説明している。英文を
併記しているので、
アジ研の国際研修参
加者にも喜ばれてい
る。

日本で開催される
2020年コンgress
(国連犯罪防止刑事

司法世界会議)、東京五輪・パラリンピック
に向けての情報発信に最適手帳(タテ15.5
釐、ヨコ9.5釐、頒価:500円)と思われる。

この手帳作成のアイデアを出し、責任編集
者となったACPF会長の堺屋太一氏が日経
新聞に書いている。

- ・日本の犯罪・事故の少なさは世界で突出
- ・時間の正確さも諸外国に比べさまざま
- ・バブル崩壊以来の日本は安全追求に偏ると。そして、もう一つ誇る美点は、汚職のない「清廉な国」であること。

この手帳づくりに全力投球した松尾邦弘副
理事長(当時、現会長顧問)は「現在の日本
は、間違いなく『安心で安全で正確で清廉な
国』である」と述べたあと、こう付け加える。

〈日本が世界に誇れる犯罪抑止の制度を2
つ紹介しましょう。1つは、保護司制度です。
日本では、全国に5万人の保護司がいます。
罪を犯してしまった人に親身に寄り添い、支
えることで、かなり再犯の抑止になっていま
す。もう1つは、就労支援機構です。刑務所
から出た後に、職を手にした人は、無職の人

データで見る「安全な国」から
日本を考える

国連犯罪防止刑事司法世界会議
2020年コンgress『安全な国 日本』
JAPAN, How Safe?

編集 松尾邦弘
責任編集 堺屋太一
発行 財団法人アジア研究財団(ACPF) 事務局 有田 知徳

2016年7月発行
発行部数 10,000部
定価 500円(税別)

この冊子は、日本が世界で突出する犯罪・事故の少なさを、世界の主要国と比較してデータで説明しています。また、日本の安全追求の歴史や、バブル崩壊以来の安全追求の経緯についても詳しく解説しています。

目次
1. 安全な国とは何か
2. 日本の安全追求の歴史
3. 日本の安全追求の現状
4. 日本の安全追求の課題
5. 日本の安全追求の未来

編集 松尾邦弘
責任編集 堺屋太一
発行 財団法人アジア研究財団(ACPF) 事務局 有田 知徳

2016年7月発行
発行部数 10,000部
定価 500円(税別)

有田審議役の講演録、太平洋セメント(株)技術情報誌「CEM'S」69号2016年4月1日発行から

に比べて再犯率が5分の1に減少します。保護
司も、就労支援も、基本的にはボランティア
で行っていますが、こうした市民のネット
ワークづくりが犯罪対策に顕著に効くので
す)

〈特異な事件が発生する度にメディアが大々
的に報道するため、日本の治安が悪化してい
ると感じる人がいるかもしれませんが、ここ
10年ほど、日本の犯罪発生率は急激に減少
しています。殺人罪も増えていません。世界
と比べても極めて安心、安全な国だと言える
でしょう)

そして最後に〈刑事理論や刑事政策につい
て考える際、理論の根底にある現実を適切に
把握した上で、グローバルな視点から、日本
の刑事司法、刑事政策を考える力を是非養っ
ていただきたいと思います)。

この小冊子『安全な国 日本』は財団本部
に置いてあります。積極的な活用をお願いし
たい、と思います。

注文・問い合わせは財団事務局(電話
042-334-6639)へ。

横浜支部

支部
だより

恒例のディナー・クルーズでおもてなし —— 第163回研修参加者を迎えて

マリーナ
ルージュ号
の前で

平成 28 年 5 月 27 日（金）、横浜支部恒例の国際研修参加者を迎える横浜港ディナークルーズが行われました。当日は雨が心配されましたが、乗船開始時には雨も上がり「マリーナルージュ号」の前で集合写真を撮り船に乗り込みました。

今年の参加者は第 163 回国際研修参加者外国人 20 カ国 23 名、日本人 7 名、合計 30 名に引率者は 9 名でした。

来賓は ACPF の堀内国宏事務局長、吉田弘之事業部長、千葉景子評議員（元法務大臣）、横浜刑務所から名雪加奈子統括矯正処遇官、赤間寛司国際専門官、佐藤沙羅国際専門官。

乗船後、赤津武雄横浜支部副会長の司会で、まず横山佳夫横浜支部副会長（ACPF 本部長）が開会の挨拶、赤津武雄横浜支部副会長が歓迎の挨拶をしたあと、アジ研湯川毅教官と ACPF 堀内国宏事務局長から挨拶がありました。赤津武雄横浜支部副会長が来賓を紹介しました。

その間、いつの間にかマリーナルージュも出港し、千葉景子評議員（元法務大臣）の乾杯の音頭で食事、歓談が始まりました。

食事の後はデッキに上がり横浜港の素晴らしい夜景をバックに写真を撮ったり、お互いの交流を深める場となりました。

その後、もう一度船室に戻り、これも恒例となった「日舞扇乃会」の花柳錦右さん（横浜支部会員、東京理科大学学長藤嶋昭氏の奥様）、森口カツ子さんによる日本舞踊が始まりました。

最初は森口カツ子さんの「秋の色種」と題する舞踊。続いて花柳錦右さんの「三番叟」。素晴らしい踊りに外国からの研修参加者は身を乗り出して見学していました。

そして最後は「日舞扇乃会」の皆様の先導で全員が輪になり「東京音頭」を踊りました。研修参加者も見よう見まねで懸命に踊っていました。一曲終わった後、アンコールの掛け声も出ましたが、時間の関係で止む無く終了



横浜銀行本店、平山郁夫先生の絵画の前で



挨拶をする 横山副会長

赤津副会長夫妻



東京音頭を踊る千葉景子元法相(右)

横浜みなとみらい地区の夜景をバックに



アジ研修修生、ケニアのギチャナ・ジッポラ・ワウイラ様から花柳錦右様へ花束贈呈

となりました。

そして、横浜支部会員の宮田珍子さんから提供された源氏物語、小野小町など日本文化をデザインしたハンカチが研修参加者全員に手渡されました。プレゼンターは宮田珍子さんの代理、和服姿の荒山伸一さんと花柳錦右さんです。受け取った研修生は興味深げにお互いに見せ合いながら楽しんでいました。

ケニアのギチャナ・ジッポラ・ワウイラさん(少年裁判所判事)が代表して「日舞扇乃会」の花柳錦右さんにお礼の花束を贈呈しま

した。

引き続きギチャナさんが謝辞を述べ、野田綾香さん(警察庁警部)が通訳をしました。

豪華な食事、煌びやかな夜景、素晴らしい日本舞踊、研修参加者へのうれしいプレゼントと楽しい時間はあっという間に過ぎマリンルージュは横浜港へと戻ってきました。

最後に横浜支部宮臺泰洋幹事から閉会の挨拶があり終了となりました。

(横浜支部幹事 越水詞郎)



本部支部「期成会」

感激のガッツポーズ、モンゴル研修員 —— 恒例の大相撲観戦



白鵬優勝決定を喜ぶモンゴルのムンカトウヤさん

満員御礼の場内で記念撮影

本部支部「期成会」（鈴木仁会長）は5月21日（土）、アジ研第163回国際研修の参加者30人（海外23、国内7）らを両国国技館の大相撲夏場所14日目にお招きした。白鵬、日馬富士、鶴竜と横綱3人がすべてモンゴル出身。モンゴル支部と姉妹関係を結んでいる期成会ならではの相撲観戦プログラムで、2007年に始まり、今回が10回目だ。打ち出し後、近くの第一ホテル両国で交歓会を開き、交流を深めた。

海外からの研修参加者には、「国民全体の豊かさ・幸福度」を示す尺度としてGNH（国民総幸福：Gross National Happiness）を提唱するブータン王立警察の司令官もおられたが、この日の主役は、モンゴルの司法省法制改革部専門官のニヤムスレン・ムンカトウヤ女史。横綱対決で、全勝の白鵬が日馬富士を破ると、大きく両手を広げてガッツポーズ。結びの一番で鶴竜が1敗力士を降して、白鵬の37度目の優勝が決まると、再度のガッツ

ポーズで喜びを爆発させた。

第一ホテル両国の交歓会では、まず期成会の鈴木仁会長が「相撲を存分に楽しんでいただけだと思います」と歓迎の挨拶。堀内国宏アジア刑政財団事務局長、湯川毅アジ研教官の挨拶のあと、戸田信久審議役が乾杯の音頭をとった。司会は鈴木会長の長男了（さとる）氏。英語を流暢に操り、通訳兼任だった。

この日の目玉イベントは、宇都宮保護司会の男性合唱団（10人、沼尾守夫指揮）のコーラス。「ふるさと」などを歌い上げ、やんやの喝采を浴びた。期成会の鈴木会長は、宇都宮保護司会の会長でもある。

研修参加者は覚えたばかりの日本語で自己紹介したが、厚生省の麻薬取締官・秋篠邦治さんはケニアの民族衣装を着ていた。ケニアからの参加者からプレゼントされたという。続いて北田幹直理事が挨拶。最後に西アフリカのマリ共和国の検事フォファナ・バンデオゴさんが謝辞を述べた。大阪高裁裁判官の細



鈴木仁会長



堀内国宏事務局長



湯川毅教官



戸田信久審議役



司会の鈴木了会員



宇都宮保護司会合唱団



ケニアの民族衣装姿で自己紹介する秋篠麻葉専門官



挨拶する北田幹直審議役

期成会役員が壇上で手締め



別れを惜しむ宇都宮保護司会合唱団



お礼の挨拶をするバンデオさん(中央)と通訳の細野判事(右)



ニヤムスレンさんに英語版会報を手渡す鈴木会長



ナラントウーヤさんと鈴木会長

野高広さんが通訳をした。

期成会の田久保健美副会長が中締め挨拶に続き、鈴木会長、島田益吉副会長、弧崎麻男幹事、会員の東洋子さんも壇上にあがり、5人の音頭で三三七拍子。交歓会はお開きとなった。



この日の大相撲観戦を報告する期成会報英語版を作成、6月22日アジ研で行われた研修の修了式・歓送会で、鈴木会長がニヤムスレンさんに手渡した。



次の第164回国際研修には、モンゴルから司法内務省条約・法律・協力局上席担当官のナラントウーヤ・チョイジャンツァン女史が参加した。

彼女は、期成会がモンゴルと姉妹提携を結んだ際、モンゴル側のスタッフとして作業を進めてくれた。鈴木会長(ACPF理事)は9月21日アジ研で行われた修了式・歓送会に出席し、ナラントウーヤ女史にお土産を手渡すと同時に、来夏モンゴルを訪問して、モンゴル支部と交流を深めることを約束していた。



支部総会並びに講演会を開催 新聞各紙が報道

平成 28 事業年度支部総会を下記のとおり開催した。各議案について審議の結果、それぞれ原案どおり可決承認された。

記

- 日時 平成 28 年 6 月 2 日 (木) 16:00 ~
- 場所 大阪国際交流センターさくらの間ほか
- 議案 平成27年度大阪支部事業報告
平成27年度大阪支部収支決算報告
平成28年度大阪支部事業計画 (案)
平成28年収支予算 (案)
平成27年度大阪支部役員等の委嘱報告

支部会長 (議長) 及び事務局の進行により、議案どおり全会一致で承認された。総会の冒頭、荒川支部会長が「大阪支部設立から 21 年目を迎えることができたのも、ひとえに会員の皆様のお陰で今後も引き続き国連アジア極東犯罪防止研修所 (アジ研) などに対する支援を行いたい」と謝意と決意を述べた。また、従来から協力している法務総合研究所 (法総研) 国際協力部が招致した外国法曹人との交流会も積極的に行い、国際貢献を果たしたい旨を述べられ、総会は無事に終了した。

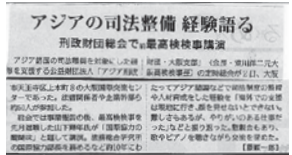
引き続き講演会・癒しのピアノコンサートを開催。講演会では、前アジ研所長・山下輝年氏 (最高検検事一公証人) が、アジア諸国の法整備や人材育成での実体験を基に、「国

平成 28 年 6 月 3 日付
朝日新聞



平成 28 年 6 月 3 日付
読売新聞

平成 28 年 6 月 4 日付
毎日新聞



際協力の醍醐味」について語った。山下氏は、発展途上国では汚職が多発し、法整備が後回しになっている現状を指摘。その上で、「司法に汚職がない

日本の法制度は彼らの意識改革に大いに役立っている。日本で学んだ彼らが本国の法曹界を支えている」と強調し、人材の育成支援こそが国際協力の醍醐味だと訴えた。懇



講演時の会員ら

親会では、～癒しの風ピアノコンサート～として、主に関西各地のプライダル・レストラン等で活躍されている渡辺真紀さんの演奏を聴きながら歓談した。

会場には多数の会員の方々や各種諸団体及び報道記者も参加していただき盛会裡のうちに閉会した。

(大阪支部・柏岡征和)

第164回国際研修参加者を迎えて

実施日 平成28年9月3日(土)～4日(日)



左から山下前アジ研所長、ナミビアのマリアナ課長、
フィジーのフィシ訴追担当官、香港のチャン首席

フィジー警察のフィシ・タウシア・ナサリオ訴追部訴追担当官▽ナミビア矯正局のマリアナ・マーティン更生・社会復帰部社会内処遇課長▽香港矯正局のチャン・カイ・ポン首席の3人がアジ研前所長、山下輝年氏に引率され、新幹線・のぞみ号で新大阪駅に到着した。一行を通訳らと駅頭に出迎え、駅近くのホテル・レストランで自己紹介を兼ねた昼食会の後、恒例となった近畿大学・法科大学院キャリア支援委員会主催の外国人法曹との研修会に参加した。会場は、近畿大学の東大阪キャンパス。参加学生は法科大学院生や法学部生であった。

まず山下氏が「刑事司法の国際分野における検察官の役割」と題して基調講演。アジ研の歴史と役割、日本の検察官の国際分野における活躍について説明をした。引き続きフィジー・香港・ナミビアの順でショートプレゼンテーションが行われた。いずれも優れた内容で、特徴的なこととして、検察官の他に起



更生保護法人「和衷会」

訴権を持つ警察官がいること(フィジー)、少年の矯正施設で一般高校生による体験入所を実施し犯罪防止に役立っていること(香港)、矯正局が警察や裁判所からの個人情報共有が出来ないために収容者に応じた処遇が難しくなっていること(ナミビア)などの紹介があり、参加院生との間で活発な質疑応答がなされ、3時間の充実した研修会が行われた。

懇談会は、当支部幹部と大阪市内のホテルで合流して開催。3国とも、支部として初めての招待国で、お互いの文化・法律等の違いについて会話が弾み、実のある交流懇談会となった。

翌4日は、出所者の社会復帰などを支援する更生保護法人「和衷会」に赴き、日本一と言われる施設の見学・施設長から就労の援助、生活指導の実体の説明を受けた。研修参加者たちは、そのきめ細かい指導に感心し、多くの質問をしていた。昼食後は、大阪ゆかりの法善寺横丁・道頓堀を散策。その後、淀屋橋から水上バスに乗船し、水の都大阪を川面から案内した。予定の行事を終え、夕方の新幹線で帰京した。

今まで参加した研修員と同様にそれぞれの国で、ACPFの目的である「犯罪なき繁栄」に尽力してくれる事を願うばかりである。

(大阪支部・瀧・柏岡)

支部

だより

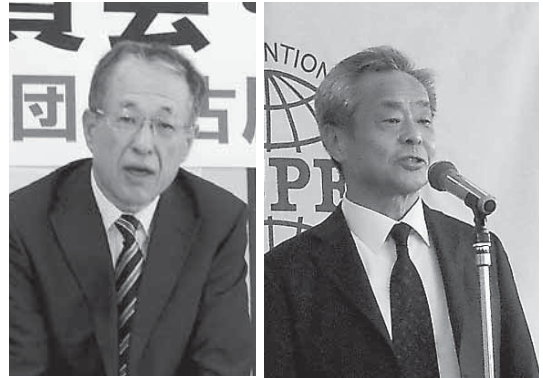
名古屋支部

第24回支部役員会・総会を開催

平成28年6月10日(金)、KKRホテル名古屋で第24回支部役員会・総会を開催した。出席は会長ほか15人、来賓として財団本部から有田知徳審議役、名古屋高検から田内正宏検事長、廣上克洋次席検事及び名古屋地検から小島吉晴検事正が出席した。

議案審議に先立ち、会長(代理:中部電力(株)長谷川聡法務部部長)から「昨年9月、国連ヨーロッパ犯罪防止研究所長のマッティ・ヨツェン氏に『犯罪予防における国連、アジ研、アジア刑政財団の役割』について講演していただいた。その中で、当財団の有する国際的ネットワークが、国連犯罪防止・刑事司法プログラムの中でも大変重要な貢献をしているとの高い評価をいただきました。一昨年の公益財団法人への移行を経て、公益目的事業の範囲が、犯罪の防止・治安の維持や、国際相互理解の促進を目的とする事業にも広がり、当財団の果たす役割がさらに重要になるとともに、社会からの期待もますます高まっていくものと考えます。みなさまのご理解とご協力、本部のご指導をいただきながら、アジアの「犯罪なき繁栄」への貢献を目指して、より一層活発な活動を推進したい」とあいさつがあった。その後、各議案について田中清隆・小関敏光両主幹から説明があり、審議の結果、いずれも原案どおり可決承認された。事務局から支部会員の獲得などについて事務連絡が行われた。

終了後、田中主幹のあいさつに続き、名古屋高検の田内検事長があいさつ、名古屋地検の小島検事正の乾杯の発声で、懇談会が開会された。和やかなうちに時間を過し、小関主幹の閉会を惜しみながらのあいさつで、散会となった。



有田 ACPF 審議役

田内名古屋高検検事長

記

議案Ⅰ 平成27年度事業報告

- 1 第23回支部役員会・総会開催
- 2 講演会開催(演題=犯罪防止における国連、アジ研、ACPFの役割)
- 3 アジ研第161回国際研修・客員専門家との意見交換会開催
- 4 刑事政策公開講演会出席
- 5 平成27年版犯罪白書に関する説明会出席
- 6 アジ研日本・ネパール司法制度比較共同研究研修における客員専門家等との意見交換会

議案Ⅱ 平成27年度収支決算報告

議案Ⅲ 平成28年度事業計画(案)

- 1 アジ研第89回国際研修同窓会出席
- 2 第24回支部役員会・総会開催
- 3 講演会開催
- 4 アジ研第164回国際研修員との意見交換会開催
- 5 刑事政策公開講演会出席
- 6 犯罪白書に関する説明会出席
- 7 CPPAPへの活動支援(ハーフウェイハウス運営を含む)支援金50万円

議案Ⅳ 平成28年度予算

議案V 役員の推薦

次の役員に推薦する。

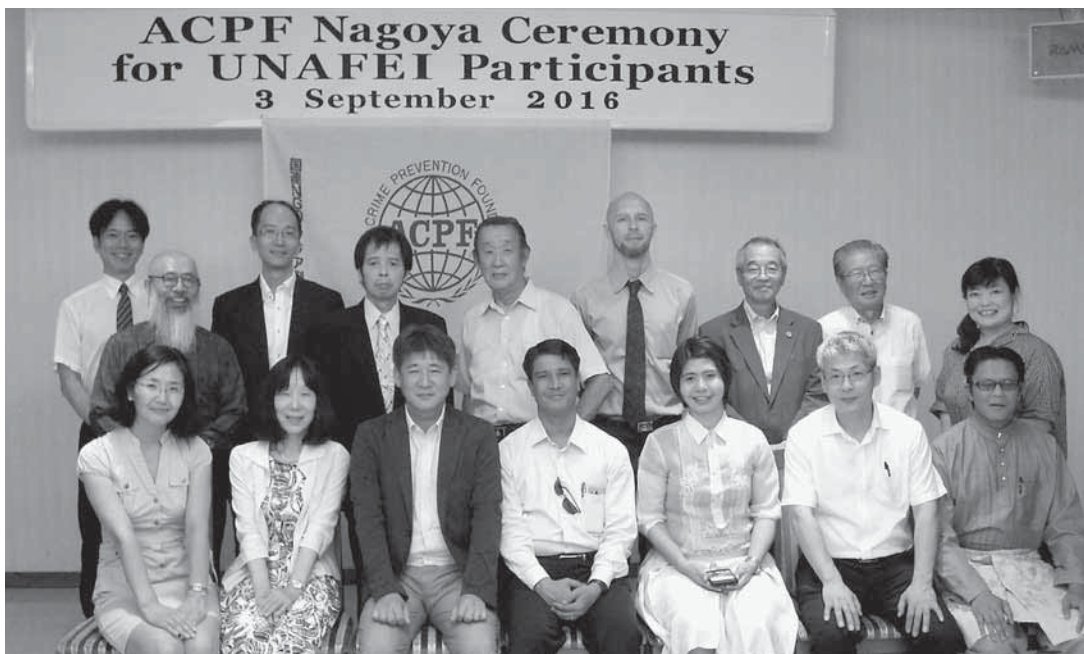
会長 中部電力(株)顧問 川口文夫
 副会長 興和(株)取締役社長 三輪芳弘
 主幹 田中清隆 テミス綜合法律事務所弁護士
 小関敏光 弁護士法人名城法律事務所
 弁護士
 幹事 東邦ガス(株)取締役社長 安井香一
 東海旅客鉄道(株)取締役社長 柘植康英
 リンナイ(株)取締役社長 内藤弘康
 (株)名古屋銀行取締役会長 加藤千磨
 (株)豊田自動織機取締役名誉会長 豊
 田芳年
 (株)ジェイテクト取締役会長 新美篤志
 豊田通商(株)取締役社長 加留部淳
 アイシン精機(株)代表取締役副社長
 三矢誠

(株)デンソー相談役 深谷紘一
 豊田合成(株)代表取締役社長 荒島正
 (株)喜多八代表取締役 舟橋幸男
 愛知県保護司会連合会会長 小林邦夫
 愛知県更生保護事業連盟会長 黒河陽
 愛知県更生保護女性連盟会長 青山禧子
 監事 (株)丸福代表取締役 鈴木富三
 参与 名古屋矯正管区長 佐藤克巳
 名古屋刑務所長 別府公昭
 名古屋拘置所長 高山正訓
 瀬戸少年院長 横井幸四郎
 名古屋少年鑑別所長 土屋守
 名古屋保護観察所長 永井文昭
 顧問 名古屋高等検察庁検事長 田内正宏
 名古屋地方検察庁検事正 小島吉晴
 愛知県知事 大村秀章
 名古屋市長 河村たかし

第 164 回国際研修参加者を迎えて

平成 28 年 9 月 3 日 (土)、第 164 回国際研
 修に参加しているムハマド・ラズミ・アブド
 ・ラザク氏 (マレーシア社会福祉局ツナス・バ

クティ学校長)▽ナラントゥーヤ・チョイジャ
 ャン氏 (モンゴル司法内務省条約・法律・
 協力局)▽アウン・ミョー・チョン氏 (ミヤ
 ンマー内務省行刑局次長)▽ジェザ・メイ
 ・サラ・カラウアグ・サンチェス氏 (フィリビ



ここに
こやかに
記念撮影

ン刑務運営局課長)▽ヨンジュ・ソン(大韓民国ウルサン拘置所福祉課長)の5人は、田代晶子氏(法務省保護局更生保護振興課補佐官)の引率で、来名された。

トヨタグループ発祥の地である旧豊田紡織(株)本社工場跡に残されていた赤煉瓦造りの建物を活かしてトヨタグループ16社が共同で設立したトヨタ産業技術記念館へ向い、昼食の後、繊維機械館で紡ぐ・織る技術と繊維機械の移り変わりを、また自動車館では自動車の仕組み・構成部品、トヨタの創業当時から現代に至る技術を驚嘆しながら興味深く見学した。

その後、本日の宿舎であるウェスティンナゴヤキャッスルにチェックイン。午後5時30分からKKRホテル名古屋で意見交換・歓迎懇談会が開催され、一行はそれぞれが自己紹介を兼ねてあいさつをした。

名古屋支部会長(代理:中部電力(株)長谷川聡法務部部長)からの歓迎のあいさつ、記念品の贈呈のあと、名古屋支部田中清隆主幹の乾杯の発声により懇談会が始まった。海

外からの研修参加者と和やかな交流の輪が広がり、懇談会は大いに盛り上がった。終わりにナラントゥーヤ・チョイジャンツァン氏から心のこもった謝辞が述べられ、小関敏光主幹の閉会のあいさつの後、記念写真を撮り、別れを惜しみながらの閉宴となった。

翌4日(日)は、トヨタ産業技術記念館の隣にある則武の森(ノリタケチャイナ)を研修参加者の希望により見学し、そのあと徳川美術館・蓬左文庫へ。徳川ご三家筆頭であった尾張徳川家の歴代相伝の重宝、いわゆる「大名道具」、世界的にも有名な国宝「源氏物語絵巻」をはじめ国宝9件、重要文化財59件、重要美術品46件などの所蔵品を鑑賞した。昼食後、隣接する池泉回遊式の日本庭園である徳川園(尾張徳川家別宅)をガイド(英語)さんのユーモラスな説明で楽しく見学し、池の鯉の餌やりには、びっくりしながらも大変楽しそうであった。

2日間の充実した日程を終え、別れを惜しみつつ、新幹線「のぞみ」にて離名帰京された。

札幌支部

支部

だより

第164回国際研修参加者を迎えて

札幌支部では、アジ研第164回国際研修参加者(海外5か国からの研修参加者5人、引率の本部事務局大森総務部長を含め、合計6人)を札幌市にお招きして意見交換会・懇親会を9月3日(土)に開催した。

海外5か国からの研修参加者は——。国名アルファベット順でバン格拉デシュ:Mr. ホセン・タルクダー・ムハンマド・シャファイエット(社会福祉省社会支援課首席)▽ブータン:Mr. ウグエン・ケルザン(王立警察タシガン第9管区警視正)▽ブラジル:Ms. アイラム・ブルーノ・ジ・アルメイダ(セルジッペ州連邦検察庁 手続分析官)▽コートジボ

ワール:Mr. コナン・セラファン・クアム(司法省アベングラー高等裁判所矯正・民事部門判事)▽ナミビア:Ms. メウナヨ・ジロセ(ナミビア矯正局更生・社会復帰部 特別処遇課長)

一行は当日昼の到着便で来道。まずACPF札幌支部の会員である佐々木孝一氏が施設長を勤める更生保護法人札幌大化院希望寮の施設視察を行った。終了後は、会議室で佐々木施設長と活発な質疑応答が飛び交った。佐々木施設長は、入寮者の選抜方法、在寮生活、就職支援体制、生活保護体制、近隣住民との良好な関係の維持などを丁寧に説明、海

会場に入る前の5人のゲストの方々（右からバングラデシュ、ブータン、ブラジル、コートジボワール、ナミビア）と、その後ろに担当の通訳の方々



保護司連合会からシンボルマークの「幸せの黄色い羽」のバッチの贈呈

外からの研修参加者は大いに感じ入っていた。

当日宿泊するホテルロイトンに戻った一行は、民族衣装などで着飾って、午後6時から意見交換会・懇親会が行われる中島公園のパークホテルへ。支部会員ら48人が待ち受ける会場で盛大な拍手で迎えられた。吉岡征雄札幌支部会長が歓迎のあいさつを述べ、楽

しい意見交換会・懇親会が始まった。

過去2年連続して真冬の雪まつりの時期（その真最中ではないが）に合わせて大々的に開催していた。今年度はアジ研側の事情から以前の秋に戻した。今回、海外からの各研修参加者に1人専属の形で学生ボランティアの通訳を付けた。おかげで、各テーブルではこれまで以上に会話が盛り上がった。支部会員の中には、大雨で分断された悪路にもかかわらず、お出でいただいた方もおられ、心から感謝している。



開会に当たっての吉岡会長のあいさつ

2日目の日曜日は午後2時のフライトということで余り時間的余裕がなかったが、朝からジャンボタクシー貸切りで半日、北海道庁、札幌市時計台、北海道立近代美術館といった札幌市内観光と、狸小路での買物を楽しんでいただいた。最後は名残惜しそうに札幌駅から新千歳空港行の列車に乗られた。

札幌のひとときを充実して過ごされたことと思い、嬉しく思っている。

（札幌支部主幹・田中燈一）

栃木支部



交通管制システムにびっくり

—第164回国際研修参加者を迎えて



3名で、それに引率者としてアジア刑政財団の吉田弘之事業部長の合計4名が本県を訪れた。

宇都宮駅までは、東北新幹線を利用してもらった。埼玉県大宮駅からの乗車で、わずか23分ほどだったが、日本の誇る新幹線の利便性

アジア刑政財団栃木支部（青木勲支部長）では、平成28年9月3日、4日の両日、国連アジア極東犯罪防止研修所の第164回国際研修参加者3名を招待し、地方事情の視察、支部会員との交流を図った。

来県した研修参加者は、フィジー矯正局更生部更生担当官のヴィリヤメ・ヴォサムリ氏▽ヨルダン少年警察局研修課長のアフマッド・アリ・アルクダ氏▽パプアニューギニア司法・検事総長府社会内処遇局保護観察官のリンダ・サギ・マシーナ・デンタナ女史の

と快適性にずい分感激していたようである。

宇都宮駅到着後は、昼食を挟んで午前午後と公共施設の見学日程を組んだ。

午前中は、栃木県警察本部への訪問。県民広報課広報管理官の案内で、110番の受理やパトカーへの指令を行う通信指令センターと、県内の道路に設置された交通信号機を制御する交通管制センターを見学した。特に交通管制センターでは、ガラス越しの見学コースだけでなく、実際に管制台にまで通してもらい、その場で大スクリーンに写るジャスト



栃木県警察本部で



栃木女子刑務所で

国際研修生が本県視察 県警や栃木刑務所を訪問



花村所長（右）の案内で栃木刑務所内を視察する研修生ら＝3日午後、栃木市惣社町

アジア・太平洋地域など、先進的な日本の取り組みの理由の発展と相互協力を学んでもらうことを目的の強化を図る「国際研修生」に毎年実施している。今回ア極東犯罪防止研修所の視察はフィジーとヨルダン、パプアニューギニアの研修生が3日、本県を訪れ、県警本部、栃木矯正・保護の幹部職員が参加し、同研修所の事業を支援するアジア刑務所団栃木支部（栃木・鶴巻支部長）が案内した。一行は県警本部の通信指令センターと交通管理センターを見学した後、国内最大の女子刑務所である栃木刑務所を訪問。花村博文所長（52）から施設概要の説明を受けたほか、受刑者が職業訓練室を制作する工場や職業訓練室を視察した。フィジー矯正局長生部のツリヤメ、ツオサムリ更生指導官（38）は「施設や職員はフィジーの水準をはるかに超えている。特に多様な矯正処遇プログラムが用意されている点は素晴らしい。多くのことを学ばなければならない」と話していた。（藤原雄紀）

9月4日付け下野新聞の記事

ナウの主要交差点の状況や、近未来の新交通管理システムについてまで説明を受けた。先端技術を駆使したシステムの構築に、研修生の中からは、「これは栃木県警だけのシステムなのか」という素朴な疑問まで寄せられた。

午後は、国内最大の女子刑務所、栃木刑務所への訪問。土曜日にもかかわらず快く出迎えてくれた花村博文所長から約1時間にわたって施設概要の説明を受けた後、施設内を案内していただき、受刑者の職業訓練室など優れた矯正教育の現場をつぶさに視察した。

これらの様々な矯正処遇プログラムに、フィジー矯正局の研修参加者は、自国の水準と比べてあまりの違いに感嘆の声を上げてい



東照宮の参道で

た。

この後、一行は、宿泊先のホテルにおいて、栃木支部の会員等16名も参加した支部長主催の交歓会に出席した。

交歓会は、青木支部長による歓迎の挨拶に続き、宇都宮地検徳田薫検事正による乾杯の発声により和やかにスタートしたが、途中、3名の研修生が覚えたての日本語で、たどたどしい自己紹介スピーチをしたことから、大いに場を盛り上げた。

2日目は、栃木県が世界に誇る観光地、日光周遊である。未だ、紅葉には少し早かったが、いろは坂をくねくねと登って奥日光の中禅寺湖、竜頭の滝、華厳の滝の景観を満喫、再びいろは坂を下って昼食の後、世界文化遺産に登録されている「二社一寺」、日光東照宮と輪王寺を拝観した。

研修参加者たちは、この地をととても楽しみにしていたらしく、観光ボランティア通訳による由緒ある施設の説明に耳をそばだてていた。

2日間の日程は、あっという間であった。各研修参加者は、来た時よりも膨らんだキャリーバッグを引きずりながら新幹線で帰途に就いた。



交歓会のようす



長野支部

「ようこそ」3カ国語で歓迎

—第164回研修参加者を迎えて



ハートマークで結ばれた日本と3か国

ケニアの民芸品を受け取る
西村会長

9月3日午前11時35分着の新幹線で長野駅に到着したブラジルのジャン・クレ・ブルネロットさん（カンボグランデ連邦刑務所）▽ヨルダンのイヤド・ムハンマド・アルゾービさん（アカバ刑務所長）▽ケニアのジョイ・ナイトーレ・ンキローテ・リウングさん（保護局社会内処遇課上席保護観察官）ら研修参加者は緊張の面持ち。出迎えた私が翻訳機で覚えたポルトガル語、アラビア語、スワヒリ語で、それぞれ「ようこそお越しくできました」と述べると、一気にその表情が崩れ、にこやかになった。

そのまま支部で用意した車両で宿泊先の「ホテル国際21」に向かい、同所で昼食をとったが、和風の料理と和風の部屋がとてもお気に入りようだった。

昼食後は国宝「善光寺」に向かい、境内を散策したり、本堂にある有名なお戒壇巡りを

経験してもらった。当日は暑いほど天候がよく、善光寺近くの古くからあるかき氷店でひと休み。イチゴのかき氷を注文したところ、これが結構好評だった。

善光寺からホテルに戻り、午後4時30分から支部会員との歓迎式典・意見交換会が開催された。西村逸夫会長の歓迎のあいさつの後、各研修参加者から自己紹介があった。勤務に至った経緯などが引率の角田さんの通訳により紹介された。

式典後、記念撮影をしたのち、懇親会場で茶道石州流怡溪会の宮澤理事長の説明により研修参加者をはじめ、支部参加者全員に薄茶を楽しんでいただいた。本年はちょっとしたアクシデントのため残念ながらお手前をお見せできなかったのがとても残念だった。

久保副会長の乾杯のあと、パーティーへと移り、宴半ばには参加者全員でビンゴゲーム。準備したいろいろな記念品は早い者勝ちで参加者の手に渡った。

終盤にさしかかり、研修参加者全員が壇上に上がり、ブラジルのジャンさんがお礼の挨拶。ケニアのジョイさんからはケニアの民芸品がプレゼントされた。

須田副会長の発声により「万歳三唱」のあと、全員が手をつないで大きな輪になり、今年もおほつかない私のピアノ伴奏により県歌「信濃の国」と「ふるさと」を大合唱して閉宴となった。

研修参加者はとても感激したのでしょうか？会場からなかなか退室せず、ホワイトボードに寄せ書きをしていたのがとても印象的だった。

翌4日は8時半ころホテルをあとにして、「川中島古戦場」、「松代城址」へ。NHKテレビの大河ドラマ「真田丸」人気だろうか、いずこも例年にない人出だった。

その後松代町内の水澤ぶどう園でぶどう狩りを楽しみ、長野市内に戻って浦野りんご園を訪問して採りたてのりんごを賞味していた



かき氷でひと息



善光寺で



川中島の合戦像前で

だいた。

昼食後、長野刑務所へ。越前敏明刑務所長はじめ職員スタッフにより、パワーポイントを用いての刑務所の説明会のあと、刑務所内を案内していただいた。

長野駅でお別れとなったが、にこやかに手を振ってホームへと向かって行く姿に、帰国後のますますの活躍を祈念せずにはいられなかった。

研修参加者にとってあわただしい2日間だったと思いますが、好天に恵まれ、また、刑務所職員をはじめ、会員の皆様方、ボランティアの皆様方のご支援・ご協力により、研修参加者には充分堪能できた、思い出深い2日間になったものと思います。誠にありがとうございました。

(長野支部事務局長 山田 清)

千葉支部

支部
だより

早川会長が退任、新会長に大岩氏が就任

——平成 28 年度役員会、講演会の開催

新旧会長と貞花師匠



早川前会長へ花束の贈呈



千葉支部は平成 28 年 6 月 27 日(月)、千葉市美浜区のホテル ザ・マンハッタンで平成 28 年度役員会ならびに講演会を開催した。

役員会では、平成 13 年度から会長を務めていた早川恒雄氏（株千葉銀行特別顧問）が退任し、新会長には大岩哲夫氏（株千葉銀行顧問）が就任した。また、ほか 5 名の新役員の新選任や事業計画などが承認された。

次に行われた講演会では、「更生保護の父 金原明善物語」と題して講談師で保護司でもある一龍齋貞花師匠が一席。金原明善（1832～1923）の生涯や保護事業を始める契機となった出来事について語った。

金原明善は、明治時代に天竜川の治水事業などで活躍した実業家だが、日本で初めて刑務所出所者の保護事業を行い、保護司制度の原点を築いた方でもある。

ある日、金原は今でいう刑務所副所長の川村矯一郎から、出所者が川に身を投げた話を聞く。その出所者は川村の熱心な訓戒により改心し、二度と悪事を働かないと誓って出て

いったものの行く当てがなく途方に暮れた末、自ら命を絶ってしまったというのだ。金原はこの話を聞いて、「出所者を社会がしっかりと守る仕組みを作ろう」と提案し、のちに川村と共に日本初の更生保護施設を設立した。

扇子で卓をたたき場面を展開させる講談独特の調子の良い話法と、情感の込められたお話に、多くの参加者が深く感銘を受けた様子だった。講演会後に行われた交流会でも、サービス精神たっぷりの貞花師匠が会場を大いに盛り上げた。

千葉支部は、長きに亘り財団および千葉支部の発展に大きく貢献された早川前会長の功績をしっかりと受け継ぎ、大岩新会長のもと新体制での活動に一層邁進します。



一龍齋貞花師匠の講演

就任の挨拶をする大岩新会長



支部
だより

「SMAPな保護司」って？

埼玉支部

——大塚成穂教育主事が講演

ギターを片手に大塚先生の講演



埼玉支部では8月9日、さいたま商工会議所ホールで埼玉県保護司カウンセリング研究会と共催で恒例の公開講演会を開催した。約100名の方々に聴講していただきました。

講師として埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課主席社会教育主事の大塚成穂先生をお迎えし、テーマは『100じゃなければ0ですか？～自己肯定感を育むために』。

先生は、現在、少年院に新規に収容される28%が貧困層の家庭であることを示された上、貧困を原因の一つとする“自己肯定感”が低い子供たちが増えている。これが非行の原因に繋がり、自分自身だけでなく自分の将来に対しても、夢や希望を持ってなくなっているなどと指摘しました。

自尊感情は、良好な人間関係の中でその人の存在価値が認められ、頼りにされる経験を通じて育つ、とされる。集団での活動や異年齢で遊ぶ機会が減少していることや、大人が子供と接する際の良い面をほめずに他者と比較して悪い面だけを指摘する行為、過保護、過干渉や過度の放任などによっても、子供が自分の力で物事に取り組み、自分自身の将来を切り拓く力が弱まっていることなどが問題であると論じた。また、生活リズムの乱れや、ゲームが及ぼす悪影響にも言及された。

“自己肯定感”の高い子供に育てる5つの方法として①どんな時も「あなたの味方」と伝える②小さな成功体験を積みませ、褒めてあげる③頑張りを認めてあげる④子供の話を真剣にきいてあげる⑤魔法の言葉「ありがとう」で感謝の気持ちを伝える、を挙げた。

聴講者のなかの保護司に向けて「SMAPな保護司」（S：信頼できる、M：見守ってくれる、A：明るく穏やかな、P：パーソナリティを認めてくれる）であってください、との希望も述べた。

大塚先生はギター伴奏による歌も披露されるなど、有意義で思い出深い講演会となりました。

副会長に市川憲子さんを選任

この公開講演会よりも前の6月2日に開催された支部会員総会では平成27年度事業計画が承認され、前年と同様に年間2回、講演会を開催することを決めた。

また、事務局体制強化のため副会長に埼玉県保護司カウンセリング研究会会長でもある市川憲子会員が、幹事（事務局メンバー）として保護司の志村巖会員が、それぞれ補充的に選任された。本年度は、岡村稔会長の下で副会長3名、事務局3名の体制で事業運営にあたることになった。



埼玉支部の
新体制（左から市川副会長、岡村会長、志村両幹事）



来年1月に 4回目のタイ・ セミナーを開催

本誌前号の表紙写真にもなった日本企業・日系企業関係者向けのACPFタイ・セミナー第4回が、来年1月26日(木)午後タイの首都バンコク市内のタイ法務研究所(TIJ)カンファレンスルームで開催の予定。

このセミナーは、「法の支配と犯罪なき繁栄」の観点からACPFタイがタイ法務研究所の協力を得て当財団と共催するもので、今回のテーマは「タイの日本企業における人材確保に関する諸問題」(案)。具体的なトピックスとしては、新たな社会保障制度への対応、労働条件の改善、労働者不足への対応、身体障がい者の雇用などが候補に挙げられており、タイ側において講演者も含めてさらに検討が進められている。

毎回バンコク日本人商工会議所を通じて日本企業・日系企業にご案内をしています。同時通訳(タイ語-日本語)があります。関心がおありの方は本部事務局(Tel. 042-334-6639)の大森まで問い合わせを。

田中評議員が瑞宝重光章を受章

春の叙勲で評議員の田中康郎氏(元明治大学 法科大学院教授) =写真=が瑞宝重光章を受章した。

同氏は元札幌高等裁判所長官、元アジ研の教官でもある。ACPFが一昨年春に公益財団法人に移行した時から評議員に選任。



松尾副理事長が退任

理事会・評議員会を以下のように開催した。

第5回理事会 6月7日(火)

平成27年度事業報告及び決算等について

第3回評議員会 6月23日(木)

平成27年度事業報告及び決算等について

それぞれの関係資料は、当財団のウェブサイト(<http://www.acpf.org>)の「公開資料」で公開中。

第5回理事会では、健康上の理由から松尾邦弘副理事長の辞任を承認、新たに会長顧問に選任した。

後任の理事は、北田幹直審議役が評議員会の「決議の省略」の手続きにより理事に選任されることが報告された。



㊦退任の挨拶をする松尾邦弘副理事長

㊦理事に就任の北田幹直審議役

支部における異動・移転について

*千葉支部会長の早川恒雄氏が6月27日に退任、代わって会長に大岩哲夫氏(株)千葉銀行顧問)が就任した。同支部の事務局次長も高橋啓人氏から成田匡氏に交代した。(千葉支部だより 32号参照)

*広島支部事務局長の吉田義誠氏が4月19日に退任、代わって富村・林谷法律事務所の林谷浩二氏が就任。

同支部事務局事務所も6月13日に移転した。

*名古屋支部が7月20日に事務局事務所を移転した。電話番号・FAX番号は今まで通り。
(総務部長 大森晶夫)

マレーシア刑政財団がアジア 刑政財団本部を表敬訪問

平成28年9月21日(水)、マレーシア刑政財団(MCPF)のライ・リー・ペン事務局長一行がアジア刑政財団堀内事務局長を表敬訪問した。今回の訪問は、MCPFと王立マレーシア警察が日本の警察庁での派遣実務研修で来日したことで実現した。MCPFは表敬後、アジ研を見学し、アジ研第164回国際研修歓送会に参加した。



堀内事務局長にお土産を手渡すライ・リー・ペン MCPF 事務局長と MCPF 一行

インド刑政財団メータ氏がACPF 本部、千葉支部、名古屋支部を訪問

インド刑政財団事務局長のプラディープ・メータ氏(元インド鉄道警察警視総監、アジ研同窓生)は、平成28年3月にアジ研客員専門家として訪日。ACPF前理事長敷田稔氏を表敬(3月16日)したほか、堀内事務局長らと財団活動の進展に関する意見交換、友好協約関係にある千葉支部や名古屋支部を訪問した。当財団と協力関係にある経営友会では講演「インドにおける汚職犯罪の現状とその対策」を行うなど、精力的に活動をしていた。



鯉のぼりのお土産を前にくつろぐメータ氏御夫妻(名古屋にて)

< 主な海外関係活動 >

(平成28年3月から平成28年9月まで)

3月14日～20日

第60回婦人の地位委員会

アメリカ・ニューヨーク

ニューヨーク駐在代表メラップ女史出席

3月14日～22日

第59回国連麻薬委員会

オーストリア・ウィーン

ウィーン駐在代表レド弁護士出席

4月19日～21日

世界薬物問題に関する国連特別総会

アメリカ・ニューヨーク

ニューヨーク駐在代表メラップ女史出席

5月23日～27日

第25回国連犯罪防止刑事司法委員会

オーストリア・ウィーン

ウィーン駐在代表レド弁護士出席

8月14日

ニューヨーク駐在代表メラップ女史逝去

海外協力団体所在国など一覧

	設立年月	提携支部		設立年月	提携支部
インドネシア	92/ 1		タイ	95/11	大阪支部
パキスタン	92/ 2	埼玉支部	ソロモン	97/ 3	大阪支部
ネパール	92/ 6		インド	97/10	千葉支部
マレーシア	93/ 1		トンガ	98/ 7	大阪支部
フィリピン	94/ 3	名古屋支部	ケニア	99/10	
スリランカ	94/ 8		ウガンダ	99/10	
バングラデシュ	94/ 8	日本橋会	モンゴル	00/ 2	期成会
フィジー	94/ 9	大阪支部	中国	00/10	福岡支部
韓国	94/12				

編集後記

敷田賞の創設を喜びたい。これでACPF（アジア刑政財団）を設立した「敷田稔」の名前が永久不滅となった。もっとも財団が存続される限りだが。

表紙の賞状を見てもらいたい。堺屋太一会長、日野正晴理事長の真ん中に、Minoru Shikita, Founder of ACPF とある。当財団の設立者と明記している。

最初の受章者アイリーン・メラップさんはアジ研（国連アジア極東犯罪防止研修所）・ACPFの活動を支えて半世紀というから、文句のない実績である。ただ、残念なことにことし8月に亡くなられた。90歳だった。

1970（昭和45）年に京都で開いた第4回 कांग्रेस（国連犯罪防止世界会議）。その準備のため、敷田さんにニューヨーク国連本部

へ出向の辞令が出たのは1967年秋だった。開催の3年前である。犯罪から社会を守る「社会防衛課」勤務（のち課長）。メラップさんは同じ課の職員だった。

2020年春、東京五輪・パラリンピックに先駆けて第14回 कांग्रेसが日本で開かれる。前回ドーハ会議の参加者は140か国5000人にのぼった。そのおもてなし役の団体のひとつとして期待されているのがACPFである。

京都 कांग्रेसでは、東海道新幹線で鉄道の世界最速時速210^{km/h}（当時）を体験し、堺屋会長らがプロデュースした大阪万博を見物した。

あと3年余り。ACPFにどのような国際貢献ができるのか。まずは知名度アップ・体質強化を図ることであろうか。

（編集長・堤 哲／評議員）

公益財団法人アジア刑政財団 賛助会員入会申込書

入会年月日		平成 年 月 日	
個人 会 員	氏名	ふりがな	
	住所	〒	
		TEL ()	FAX ()
	勤務先	勤務先名	
		部署・役職	
		〒	
		TEL ()	FAX ()
	送付先	※ご希望の送付先(会報等)に○をつけてください	
		勤務先	自宅
	法 人 会 員	会社名	ふりがな
代表者名		ふりがな	
		役職・氏名	
担当者名		ふりがな	
		部署・役職	氏名
住所	〒		
	TEL ()	FAX ()	

<年会費>

個人会員：1口 10,000円(1口以上)

法人会員：1口 100,000円(1口以上)

公益財団法人アジア刑政財団

本部事務局

〒183-0057 東京都府中市晴見町1-26

国連アジア極東犯罪防止研修所内

TEL：042-334-6639 FAX：042-334-3461



ASIA
CRIME
PREVENTION
FOUNDATION

2017年版の絹谷幸二画伯 ACPF 国際貢献カレンダーを発行します。表紙は「日月飛龍誉れ不二」です。申し込みの詳細は16ページにあります。

国連NGOトップカテゴリー 世界の「犯罪なき繁栄」をめざして

- 公益財団法人
アジア刑政財団本部
- 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴ1007号室
TEL 03-3583-1790 FAX 03-3583-1780

〒183-0057 東京都府中市晴見町1-26
国連アジア極東犯罪防止研修所内

TEL 042-334-6639 FAX 042-334-3461